

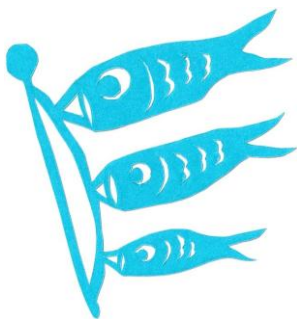
だいいく通信 第六十一号「春の号」

いあいやつ

今年の東京は桜が見事に咲いて、比較的長く花を楽しむことができました。一方で、雨が少なく空気が乾燥していたせいか、各地で山林火災が起き、深刻な被害を被ったところもありました。日ごろから怠りなく災害に対する備えを進めておかなければと思った次第です。

社報「だいいく通信」第六十一号をお届けします。

今回の内容は、当神社の最新情報をお伝えする「大國神社の今」、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。



大國神社の今

○だいいくクラシックスを開催「※好評につき満席です」

来たる五月二十四日、当神社拝殿にて第7回だいいくクラシックスを開催します。今回は、東京都交響楽団ヴァイオリン奏者田口美里さん、同じく東京都交響楽団ヴァイオリオン奏者小林明子さんのお二人によるデュオ・コンサートです。曲目はバッハのゴルトベルク変奏曲からの抜粋などを予定しております。

お宮あれこれ〜えびす様の話〜

「えびす様」は、「だいいく様」と並んで、よく知られている神様です。七福神のうちの一柱としても数えられています。今回はえびす様についてお話ししましょう。

えびす様は、釣竿を持って鯛を抱えた福々しい姿の像がよく知られています。七福神の絵などでもそのような姿がたちで描かれています

(写真は奈良・南明寺の軒瓦 <https://small-ile.com/archives/10/11/2820.php#google.vignette>)



実はこの神様の性格は複雑です。まず、漁村では豊漁をもたらす神様として海辺の祠に祀られています。毎年漁を始める際に、船主や村の若者が目隠しをして海に入り、拾ってきた石をご神体とする行事もあります。また、魚群を追って岸近くにやってきたクジラ・サメ・イルカなどを「えびす神」として信仰する風習もあるようです。

一方、商業の神様としての性格もあります。これは、大阪の今宮戎神社や兵庫の西宮神社の十日戎（とおかえびす）行事に





よくあらわれています。正月十日におこなわれる祭りで、「えびす講」とも呼ばれており、商売繁盛を願う人が大勢参詣します。祠に鯛をおそなえしたりしたそうです（写真は歌川豊国画『十二月十月恵比寿講』 国立国会図書館蔵 ジャパンナレツジより）。商業神としての信仰は古く、長寛元年（一一六三）に奈良の東大寺に、建長五年（一二五三）には鎌倉の鶴岡八幡宮に、市の守り神として祀られたという記録があるそうです。

さらに農業の神様として祀られることもあり、農村で豊作をもたらす田の神とするところがあったり、山村で山の神を「えびす」と呼ぶ例があったりするそうです。

「えびす」という名前の語源には諸説あります。古代、朝廷に従わない勢力をあらわす「えみし」という語があり、これが「えびす→えみす→えびす」のように変化し、平安時代には

「えびす」という形が一般的になっていました。この、人をあらわす「えびす」が神様をあらわす「えびす」のもとになったのではないかという考え方があります。さきほどご紹介したように、えびす様は、もともと海からやって来る神様、いわゆる来訪神と考えられていました。そういう神様の姿を、自分たちとは違う場所に住んでいる、別の人たちの姿に重ねたのかもしれない。

ただ、十七世紀初めの『日葡辞書』では、神様の「えびす」と、人間をあらわす「えびす」は別語として扱っています。つまり、江戸時代にはこの二つの語の間には関係がないと捉えられていたことがわかります。そんな事情があり、神様としての「えびす」の語源にはよくわからない部分があります。

最初にご紹介した通り、えびす様は釣竿を持って、鯛を抱えた姿がよく知られており、さらに「えびす・だいこく」として二体の神像を飾ります。この習慣の起源は次のようなことによるようです。

えびす様の本社は、先にも挙げた兵庫県西宮市の西宮神社（夷社）とされています。この神社は夷三郎とも呼ばれていて、もともとは天照大神をまつる広田社という神社の摂社（神社の本社に付属する神社で、本社の御祭神とゆかりのある神様をまつったもの）でした。広田社には、摂社がいくつあったのですが、そのうち、夷（えびす）社は大国主命もしくは蛭児（ひるこ）、三郎社は事代主命（ことしろぬしのみこと）を祀ると言われています。出雲神話で、事代主命は大国主命の子とされていて、出雲の美保崎で魚を釣っていたという古い伝承があるそうです。このことから、魚と釣竿を持った姿で描かれたのだとされます。また、室町時代にはえびす様と事代主命が混

同され、夷三郎という一体の神と考えられるようになって、各地に広まったといわれています。夷社が大国主命を祀っていたこと、そして事代主命と大国主命の関係もあって、えびす・だいくと対にされたのではないかと考えられます。

ちなみに、「エビスビール」

というビールがありますが、この名前は、明治初期に横浜で作られていた「大黒」というビールに對抗してつけられたのだそうです。また、ＪＲ山手線の「恵比寿」駅は、近くで操業していた「恵比寿ビール」の積み下ろし専用駅「恵比寿停車場」がはじまりです（写真は恵比寿駅。エビスビール公式サイトから借用しました）。



<https://www.sapporobeer.jp/yebisu/brand/history/>。身近な神様であるえびす様に関連して、実にいろいろな物語があることがわかります。

参考文献 『ジャパンナレッジ利用』『日本国語大辞典』『日本大百科全書』『世界大百科事典』『国史大辞典』『神道事典』（弘文堂）



祭礼・祈禱などの案内

○次回甲子祭

令和七年六月二十四日（火） 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで

○諸祈禱受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈禱を行なっております。

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次ページの電話番号もしくはメールにてお願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

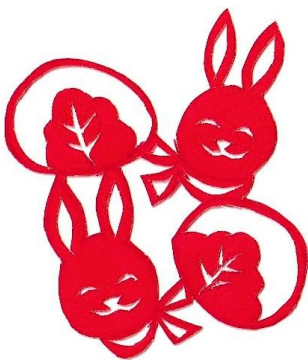
〈お問い合わせ・お申し込み〉

携帯

eメール

○八〇―一九八七―八七一六

daikokujinja@gmail.com





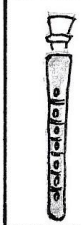
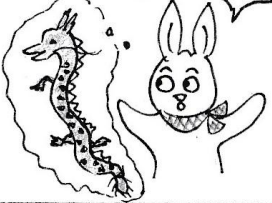
(連載まんが)

大吉うさぎ ～神社豆知識 その18～ くま こまち 作

次号発行予定

「だいいく通信第六十一号」、いかがでしたか。次号「夏の号」は、令和七年六月二十四日甲子祭に発行予定です。



今回は、雅楽の楽器を紹介するね。まずはたこ笛の「ひちりき」 	 ひちりき 箏 箒	うわあ！漢字も読み方も面白いねえ... 	この楽器はその音が「人の声」と表していると、言われているんだ 
次は、硬笛の「リゅうてき」 	 リゅうてき 龍 笛	どうして「龍」って名前がついているの？ 	天地の間を駆けぬける。龍の鳴き声と表現した音だからなんだって！ 
つぎは、竹の管と束ねた「しょう」だよ 	 しょう 竹 生	この楽器の形は、鳳凰が翼を立てて佇んでいる姿を表していると、いわれているよ 	へえ～、面白いなあ！でも、どうやって演奏するの？ 
竹の管の下の方に穴があって、そこを指で押さえて、息を吸った時に「フワフワ」した音が出て、パイプオルガンのルーツビと、言われているんだよ 	箏の音はね、「天の声」とか「天から差し込む光」にたとえられているんだ 	なげきだねえ..人の声、龍の鳴き声、天の声が合わさって、あの神秘的な音が生まれてくると言われているんだ 	

「だいいく通信」第六十一号 令和七年四月二十五日発行
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇—〇〇〇三 東京都豊島区駒込三—二—十一

<http://www.daikokujinja.org>